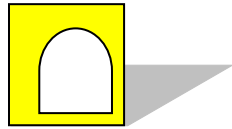


日吉台地下壕保存の会会報



第154号

日吉台地下壕保存の会

地上と地下のコンクリート

会長 阿久澤 武史

慶應義塾史展示館の今年の春と秋の企画展は「曾禰中條建築事務所と慶應義塾」です。日吉キャンパスの全体計画と第一校舎・第二校舎の設計は曾禰中條建築事務所によるものでした。慶應義塾は理想的な学園の建設を、日本を代表する建築設計事務所に依頼しました。私は企画展の『図録』に「学びの空間のロマンの夢——建築家・網戸武夫を中心に——」と題する小文を書きました。

「学びの空間のロマンの夢」とは、日吉の丘の上に描こうとした建築家の夢と理想を表す言葉です。その最初のイメージは「日吉台慶應義塾鳥瞰図」(昭和7年5月)で見ることができます。中央を直線の道路が貫き、両脇に並木が連なり、その先にギリシア神殿のような白い校舎が並んでいます。現在のキャンパスの風景と基本的には同じです。第一校舎は、その夢をかなえるために建てられた最初の校舎でした。大学予科の授業が始まったのは、1934(昭和9)年5月1日のことです。

第一校舎の設計担当者は、28歳の気鋭の建築家・網戸(あみと)武夫でした。網戸はのちに石原裕次郎や長嶋茂雄など著名人の邸宅の設計を多く手掛け、戦後の住宅建築に大きな足跡を残します。第一校舎は彼のデビュー作です。網戸は横浜高等工業学校(現在の横浜国立大学理工学部)の建築学科で中村順平に師事し、西洋と日本の古典の様式を学びました。一方でアール・デコに代表される最新のデザインにも強く惹かれ、鉄筋コンクリート3階建の、この大きな校舎の設計に創意工夫を凝らします。その記録は晩年の著作である『建築・経験とモラル』(住まいの図書館出版局)で詳しく語られています。彼は次のように述べています。

近代合理主義の激流に抗して、鉄筋コンクリート架構がヒューマニズムに昇華する願いを、表現の可能性に貫いて、両師匠に献華したことで自負なしとしない。

二人の師匠とは中村順平と中條精一郎です。第一校舎は白い外壁に太い列柱が印象的です。随所に見られるアール・デコの幾何学的な意匠とあいまって、古典主義とモダニズムが調和した昭和初期を代表する学校建築です。彼の言う「ヒューマニズム」とは、「学びの空間のロマンの夢」と同義であると考えてよいでしょう。

事実として、ここは古代ギリシアに源流をもつ哲学や論理、古今東西の文学や歴史、その根底にある人間の自由な精神を学ぶ場になりました。予科生は競うように読書をし、外国映画を見て、スポーツで汗を流しました。理想的な

【目次】

巻頭言【1-2p】	「地上と地下のコンクリート」	会長 阿久澤武史
報告とお願い【2-3p】	定期総会のご報告と年会費値上げのお願い	会長 阿久澤武史
報告【3-6p】	第35回日吉台地下壕保存の会・定期総会	
感想文【6-10p】	日吉台中学校2年生の「出張授業」への感想文	
会報150号を記念して(3)【11p】	運営委員 上野美代子	
新資料発見【11-13p】	山田金治郎さんの中国戦地からの手紙と葉書	運営委員 山田 譲
お知らせ【13p】	パネル展示会と講演会(港北図書館)	
	パネル展示会(日吉の本だな)	
連載【14p】	海外戦跡めぐり(23) 対馬海峡の守り	日本・韓国 運営委員 佐藤宗達
お知らせ【15p】	第26回戦争遺跡保存全国シンポジウム横須賀おっぱま大会	
活動の記録【16p】	2023.3月~2023.6月	

学園の風景が確かにここにありました。しかしながら、その夢や理想は戦争によって脆くも崩れ去りました。その象徴が足元に残る地下壕だと思えます。学びの場は、学生を戦場に送り出す場になり、教室に海軍が入り、地下には巨大な軍事施設が作られ、そこで戦争が行われました。いま私たちが連合艦隊司令部地下壕を歩き、懐中電灯の明かりで暗いコンクリートの壁を照らすとき、目にするのは無機的で冷たい人工物の連なりです。そこには設計者の「ロマン」はありません。あるのは剥き出しの技術であり、「ヒューマニズム」の対極にあるものです。

「ヒューマニズム」の反対語は何でしょうか。「人道主義」と訳せば、非人道的な考え方や行為のすべてが相当します。いわば「非人道主義」、その代表は戦争です。「ヒューマニズム」を支えるのは「自由主義」であり、その反対は「全体主義」や「権力主義」です。私たちはここで、日吉の予科で学んだ上原良司が特攻出撃の前夜に書いた「所感」の中の言葉を思い出します。

キャンパスの地上に建つ校舎には、鉄筋コンクリート架構を「ヒューマニズム」に昇華させたいという若き建築家の情熱が込められています。ところが足元には「非人道」的な行為を担った厚さ40センチのコンクリート空間が存在しています。地上と地下の対比——私たちはもちろん、眩しい陽の光が注がれる地上の世界を尊重しますが、それが驚くほど脆いものであることもよく知っています。

【ご案内】

慶應義塾三田キャンパス 福澤諭吉記念慶應義塾史展示館

2023年度企画展「曾禰中條建築事務所と慶應義塾」

第Ⅰ期 明治・大正編 6月27日(火)～9月2日(土)

第Ⅱ期 昭和編 10月19日(火)～12月16日(土)

※日吉キャンパスについては、第Ⅱ期(昭和編)での展示となります。

記念講演会「慶應義塾日吉キャンパスをめぐって(仮)」

日時:10月21日(土)13時～15時

講師:吉田鋼市氏(横浜国立大学名誉教授)

聞き手:阿久澤

無料:定員250名(事前申込制)

会場:慶應義塾高等学校日吉協育棟日吉協育ホール(予定)

詳細については、「福澤諭吉記念慶應義塾史展示館」のホームページをご参照ください。

報告とお願い

定期総会のご報告と年会費値上げのお願い

会長 阿久澤 武史

去る6月17日(土)、慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎大会議室において、第35回定期総会を開催いたしました。コロナ禍によって2020年から2022年の3年間は会報誌上にて執り行いましたので、会員の皆様にお集まりいただく形での開催は実に4年ぶりでした。

コロナ以前は公開講演会と一緒に総会を行っておりましたが、今回はガイド養成講座と重ねました。参加された皆様には、会の日頃の活動をあらためて知っていただく機会になったと思えます。

総会で今年度(2023年度)の活動方針案をお示しし、その中で年会費の値上げについて提案いたしました。会の活動は依然としてコロナの影響下にあり、見学会の参加人数が減少し、それに伴い見学会収入も以前に比べて少なくなっております。加えて会の運営の根幹である会費収入が年々減少し、年4回発行の会報の印刷代や郵送費が値上がりしたこともあり、会の運営は収支の面で大変苦しくなっております。

このような現状を鑑み、会員の皆様には大変申し訳なく存じますが、年会費を1口1千円から1口2千円に値上げさせていただくことにし、総会においてご承認をいただきました。

私たちの会は、会員の皆様のご協力によって支えられております。1989年の発足以来、定期総会の回数は35回を数え、会報も154号となりました。今後も無理のない範囲で活動を継続していきたいと思っております。ご理解をいただきたくよろしくお願い申し上げます。

報告

第35回日吉台地下壕保存の会・定期総会

☆2022年度活動報告

◇会員数：個人249名 会報の交換・寄贈団体：95団体

◇第32回定期総会：

2022年6月17日(金) 発送の会報150号にて議案書提出

2022年9月22日(木) 発送の会報151号にて議案書ご了承の報告

◇運営委員会開催：2022/4～2023/3 8回

◇会報発行：4回 150号(2022.6/17)～153号(2023.3/16)

◇地下壕見学会：2022/4～2023/3 37回 1,024人

◇ガイド学習会：2022/4 日吉地区センター

2022/6 日吉地区センター

2022/10 日吉地区センター

2023/1 日吉地区センター

2023/3 日吉地区センター

◇第27回2022平和のための戦争展 in よこはま：

5/28(土) **特別企画1 戦争・空襲(関内小ホール)**(参加者160名)

- ・横浜市立日吉台中学校演劇部による朗読劇「子どもたちの戦争」
- ・柴田順吉さん「中学生の僕が体験した横浜大空襲&姉妹都市オデーサ」
- ・NGO グローカリー「横浜大空襲と女性から戦争を見る」
- ・女優 五大路子さん「夢と希望と平和を演劇に込めて」

7/16(土) **特別企画2 核のない世界を(神奈川県民センター)**

- ・広島平和文化センター等歴任された小溝泰義さん「国際的緊張の高まった時こそ指導者が歩み寄る」
- ・Know nukes Tokyo 代表 高橋悠太さん「被爆者証言会や提言活動等の報告」
- ・ウクライナ出身の歌手カテリーナさん「バンドゥーラ演奏と歌」

7/15(金)～17(日) 展示 約400点(一階展示場)

◇5/10(火)「近代日本と慶應義塾」福澤研究センター日吉設置講座

「戦没塾生上原良司が問いかけること」亀岡副会長(第四校舎J14教室)

◇7/2(土)～23(土) 地下壕展示会 日吉の本だな【横浜市立図書館取次所】

◇ガイド養成講座

① 7/9(土) 応募者5名(箕輪町集会所)

② 8/11(木) 日吉の地下壕と海軍の概要(中原市民館)

③ 8/28(日) フィールドワーク(キャンパス外から見る海軍地下壕群)

④ 9/17(土) 修了者4名(日吉地区センター)

◇7/30(土)～8/27(土) 地下壕展示会(港北図書館)

◇8/20(土)～22(月) 第25回戦争遺跡保存全国シンポジウム広島大会(広島市青少年センター)

8/20(土) 全体会・講演会 8/21(日) 分科会 8/22(月) 現地見学会

◇10/15(土) 日吉地区センターの設置講座

- ・日吉地下壕について PowerPoint で説明
- ・「戦争の記憶を次世代に伝える<学徒出陣と特攻作戦>」受講生 20名

2023年

◇2/28(火) 出張授業「日吉台地下壕」日吉台小学校6年生(体育館でPowerPoint使用)

◇3/1(水) 出張授業「日吉台地下壕」新吉田第二小学校6年生(体育館でP.Point使用)

◇3/17(金) 出張授業・日吉台中学校2年生(350人)

☆2022年度 決算報告

(単位 円)

費目	2022年度予算	2022年度決算	備考
【収入の部】			
会費	300,000	193,097	156名
見学会資料代	500,000	210,481	
図書等頒布	100,000	0	
寄付金等	0	61,276	
ガイド講座受講料	0	0	
繰越金	294,954	294,954	
計	1,194,954	759,808	
【支出の部】			
運営費	160,000	101,816	各種会合・打ち合せ等
事務費	120,000	64,127	事務用品費等
印刷費	100,000	67,417	会報・資料等
通信費	300,000	177,424	会報送料等
図書資料費	100,000	5,152	参考書籍・販売書籍
交流・交通費	100,000	13,200	全国集会・各平和展賛助金等
謝礼	80,000	0	講演・学習・調査等
冊子作成費	200,000	275,000	
予備費	34,954	0	
小計		704,136	
差引残高		55,672	次年度繰越金
計	1,194,954	759,808	

以上の通り報告します。

2023年6月10日

日吉台地下壕保存の会

会計 亀岡 敦子



この報告により収支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査 熊谷 紀子



会計監査 山口 園子



☆2023年度日吉台地下壕保存の会

運営委員・会長・副会長・会計監査・顧問

会長	阿久澤 武史		
副会長	亀岡 敦子	喜田 美登里	羽田 功
運営委員	石橋 星志	上野 美代子	遠藤 美幸
	岡上 そう	岡本 秀樹	岡本 雅之
	岸本 正	小山 信雄	佐藤 宗達
	佐藤 由香	田中 剛	福岡 誠
	宮本 順子	山田 譲	山田 淑子
	渡辺 清		
会計監査	熊谷 紀子	山口 園子	
顧問	櫻井 準也	鮫島 重俊	中沢 正子

☆2023年度 活動方針

新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが、5月8日から季節性インフルエンザと同じ5類に移行し、コロナ禍は新たな段階に入りました。しかしながら、私たちの日常の不安が消えたわけではありません。会の活動は地下壕見学会が大きな比重を占めています。参加者が安心して見学できるよう、引き続き感染防止対策に注意を払いながら、安全な見学会の実施を目指します。

定例見学会は、昨年11月より第2水曜日も再開され、第4土曜日とあわせ、コロナ以前と同じ月2回のペースに戻しています。昨年度は、研究・教育を目的とした学校関係の見学会も増えました。参加者の人数には一定の制限がありますが、少人数になったことでガイドと見学者との距離が近くなり、対話の機会も増えました。安全性も増し、内容の濃い見学会となっています。このようにコロナ禍によって気づかされた点も多くあり、それらを丁寧に検証しながら今後の活動に活かしていきます。

近隣の小中学校に出向く「出張授業」は、コロナ以前にはなかった活動です。学年単位のような大人数での見学ができなくなったために始めたものですが、教育的な意義を感じています。地下壕の解説だけでなく、私たちが戦争体験者からお聞きしたお話なども紹介し、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考える機会になっています。今年も継続したい活動のひとつです。

2022年はロシアによるウクライナ侵攻があり、国際社会が大きく揺れた一年でした。日本国内では元首相が街頭演説中に銃撃される事件が起こり、大きな衝撃が走りました。世界や社会に対する目を、私たち自身がしっかりと養っていかなければなりません。会の発足から30年以上が経ち、会報も150号を超えました。このような時代だからこそ、会が一貫して取り組んできた活動を今年度も継続していきます。

一方で、近年の会員数の減少、コロナ禍による見学人数の制限などにより、会の運営が大変厳しくなっています。会費納入者は過去10年で2017年度の245名を最高に年々減少し、昨年度(2022年度)は156名となりました。会費収入の減少、見学会資料代収入の減少に加え、会報の印刷代や郵送費が値上がりし、必要最低限の活動を余儀なくされています。そのため今年度(2023年度)より会費を1000円から2000円に値上げすることを提案いたします。



5月15日(月) 日吉台中学校「平和講演会」

活動方針

- 文化財指定早期実現を文化庁・神奈川県・横浜市に働きかけ、地下壕を保存する。
- 慶應義塾・横浜市・神奈川県・国への働きかけを、港北区民をはじめとする地域住民と協力して行う。
- 小・中・高校生及び広く一般市民などに対して平易でわかりやすい見学会を実施する。
- 戦争遺跡保存全国ネットワークの会員団体として、全国的な保存活動に参加する。
- 日吉台地下壕見学会の内容をより充実させるために、ガイド養成講座・講演会・学習会を開催し、運営する。
- 横浜・川崎平和のための戦争展を開催する。
- 神奈川県内の他団体と連携し、日吉台地下壕についての展示や講演を行う。
- 日吉台地下壕の調査・研究を深める。
- 運営委員会の活動をより一層充実させる。

☆2023年度 予算 (単位 円)

費 目	2023年度予算	備 考
【収入の部】		
会費	400,000	会費 2,000 円
見学会資料代	500,000	
図書等頒布	100,000	
寄付金等	0	
繰越金	55,672	
合計	1055,672	
【支出の部】		
運営費	150,000	各種会合・打ち合わせ等
事務費	100,000	事務用品費等
印刷費	100,000	会報・資料等
通信費	250,000	会報送料等
図書資料費	50,000	参考書籍・販売書籍
交流・交通費	100,000	全国集会・各平和展賛助金等
謝礼	50,000	講演・学習・調査等
冊子作成費	200,000	
予備費	55,672	
合計	1055,672	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました。

2023年6月17日

日吉台地下壕保存の会 運営委員会

感想文

日吉台中学校生徒の出張授業感想

地元の日吉台中学校から「平和講演会」の依頼があり、3月17日(金)にガイド数名で伺いました。体育館で2年生(350名)の皆さんにPowerPointを使用して、日吉台地下壕・日吉の空襲・元特攻隊員の証言(岩井忠正 岩井忠熊兄弟)等、お話し、長時間、熱心に聞いて頂きました。350名分の感想文が届きましたので一部をご紹介します。

(5月15日(月)には同じ「平和講演会」として、新2年生にお話しました。こちらも360名の感想文を頂いています。質問が沢山あったので回答文を作成中です。)

◇私は特に話の中で人間魚雷などの兵器が、人の命を犠牲にするものだと知り、改めて戦争のむごさを実感した。また、正直なところ日本が平和主義をかかげて70年以上がたつが、日本はそこから今まで戦争をしてないので、もうあまり戦争について考え飽きた？ところがあったが、ロシアとウクライナの戦争のはじまりと、今回の学習で、より戦争のことについて知ったので、もう一度考え直さなければいけないと思った。

◇私は、平和講演を聞いて今の生活はあたりまえではないのだと改めて感じました。こんな身近に、戦争の跡があることを知らなかったのもっとこの地区のこと調べたいと思いました。今、私たちが安心して、平和に暮らせているのは、命懸けでその時代を生きぬいてきた人たちのおかげなのだとすることを忘れずに、感謝の気持ちをもって生活していきたいです。

◇今まで何度も平和の大切さや戦争の怖さについて学習してきたが、体験した人などの話を聞いて、改めて戦争は起きる前から避けた方が良いことを学んだ。日本以外の国で戦争を現在もしているが、無関心であってはいけないと思った。

◇僕は講演を聞いて改めて戦争の怖さを知りました。自ら命を捨ててまで敵に攻撃を与える特攻の様々な兵器を知った時は、もし自分がその立場だった時の恐怖はすごいものだと思います。これから二度と戦争が起こらないように体験した人がいなくなっても戦争の恐ろしさを語り継ぐ事が大切だと思いました。

◇コロナの影響で行けなかった慶応のぼうくうごうの中や、戦争本番に使われなかったにもかかわらず、沢山の日本人の命を奪った武器(や装備)など、知らなかった戦争についての情報が聞けてよかったです。また、研究しているだけでなく、戦争を体験した人の話を本人や、人づてに知ること、教科書にはない、知る機会が少ない、自分のおばあちゃん達には聞きづらいことも知ることができてよかったです。

◇今の日本があるのも先人たちのおかげなんだと思った。今の日本の治安の良さや体制を考えると、昔の人間兵器のざんぎやくさがよくわかった。召集された子供に対して親はほこりに思っているのだろうか。召集令状に歯向かうとどうなるんだろう。何歳までが戦争にいけるんだろう。

◇日吉台地下壕に一度も入ったことがないため、1度くらい入ってみたいと思った。他にも敗戦間近だったこともあり、政府側も特攻をすることは確かに仕方のないことかなと思った。半面、他にになにかやり方はなかったのかどうかとても気になった。こんな無情なことは今後はさけてほしいと思った。

◇平和講演会を聞いて、その時代に生まれ育った人たちはつらい思いをしたのだと、心から感じ、もし自分がその頃に生まれていたら、と少し恐ろしい気持ちになりました。そして、今このような便利でめぐまれた環境に生まれてきたことがありがたいことだとわかりました。このような講演は日本人ならどんな人でも一度はきくべきだと思ったので、これからもうけついでいくのがいいと思いました。



コサギの飛翔

◇この平和講演会を聞いて、昔の日吉にもたくさんの爆弾が落ちていてたくさんの被害を受けていたことを知りました。知っている場所、住んでいる場所が今、どれだけ『幸せなんだろうか』と深く想いました。戦争の時代に使われた武器たちはどれも恐ろしくて、軍人の方たちが頑張って戦ったことにとっても感謝しています。日本が戦争の道に行かないために、幸せであふれた日本にしていきたいなと思います。

◇もちろん戦争はよくないことだけれど、あまり戦争のことを理解していなかったけれど、これを機に、戦争へのたくさんの学びがありました。実際に日吉も戦場だったことや、母校の日吉台小学校も燃えてしまっていたんだなって考えると、とても恐怖でした。みずから死に行くようなじさつのぼくだんなどもすごく残こくでとても鳥肌が立ちました。戦争はなんにも生まないし、なぜやるのか、もっと頭がよくなかったのかと、とても疑問でたまりませんでした。

◇今回、平和講演会を聞いて私は、すごくタメになることだと思いました。自分はまだ若く今の平和があたりまえだと思っているので昔、その時、その場所にいた人の話をきくと今、自分がいまどれだけ平和でしあわせだと思いました。

◇戦争でたくさんの方が犠牲になったことは知っていたけど、日吉で大きな被害があったことは知らなくて驚きました。特攻のことも知っていたけど、あらためてそのひさんさを感じました。私たちは過去に戻ることはできないけれど、今平和で暮らせていることがどんなに幸せかを実感して過ごしていきたいと思いました。

◇改めて戦争は二度とおこしてはならなくて、それを後世に伝え継いでいくことが大切だと思った。戦争中みんなは国に従わなければならないと自分の意志を捨てて、戦争に賛成しているということを聞いて心が痛くなった。自分は意志が弱いから、この話とは比べものにならないけど、しっかり自分の意見を持ってまわりに左右されないような人になりたいと思った。特攻の話では自分の死を覚悟して乗ることがどんなに苦しいものか痛感した。

◇戦争をなぜもっとはやくからやめられなかったのか。特攻兵器などを見て、自分の命をけずってまで、国のために戦った人がいるから今の日本があると感じた。これからは、戦争をおこさない世の中にするため、今自分ができることを考え行動したい。

◇戦争について改めて考えることのできる機会でした。私は当時の大学に入ることができた数少ない頭のよい人たちでさえ戦争の場にいかなければならなかったということにとってもおどろきました。またその人たちがもう少し勉強したかったと、今の私にはありえない「勉強がしたい」ということを話していたことも印象的でした。戦争をしていた時代どれだけ国はあれていて今の日本はどれほど平和なのか、今私たちがしているあたりまえはどれほど素晴らしいことなのかもう一度考えていきたいです。

◇戦争は始まったら止めることができない。最初から戦争を始めていなければ良いという言葉が心に残りました。今まで「国のために戦いに行く」ということを本当のことだと思っていたが、実際言わされていたことだということがわかり、本人の辛さを我々若者が知ることができて、これから、大人になる自分たちが何か解決策を見つけられるかが課題だと思った。特攻は、人の命を同時に失ってしまう無惨な攻撃なのに、当時は、負けていると分かっていたのに、攻撃を続けていたことこそ酷いことだと思った。政府など偉い人が、しっかりしていないといけないと思った。これ以上、世界で、被害を出さないため、今自分たちが出来ることを行動に移すことが大切だと思った。

◇こんなにも身近な日吉が昔はれっきとした戦場だった事に衝撃を受けました。今となっちはこうやって平和な日々を暮らせているのも、ご先祖様達が辛い歴史を乗り越えてくれたおかげなんだな、と自分や周りの命の大切さにも気づくことができました。特攻兵器などで命を落とした人達も国や家族のために、と苦しんでいたのがよく分かりました。次はこういう戦争の時代を、自分達を語り継いでいかなければならない大切さが身にしみました。

◇太平洋戦争のとき、今住んでいる日吉も戦場だったということが一番心に残っている。また、そういう戦場で戦っていた人が今の日本を作り上げてきたと思うと今を大切に生きることや戦争でなくなった人たちの分、なんでもあきらめず取り組むことが大事だと考えた。

◇人間兵器を使ってまで戦争に勝とうとしたせいで、多くの人の命が失われてしまったのにとっても驚いた。戦時中ではごはんなども少なく我まんが多い生活や、やりたくもないことをやらされたりしていたことを知ると、今の生活は本当に恵まれていると思った。普段の生活で自分のしたいことができ、おいしいごはんが毎日食べれることに感謝をしないといけないなとあらためて思った。

◇身を捨てて、相手に突撃して攻撃する兵器があったのは元から知っていて、けれど特攻ロケット機「桜花」だけだと思っていたので人間機雷「伏龍」や特攻艇「震洋」など他にもあったことを知ってとても驚いた。家に帰って地下壕の話を父に話すと父も興味を持ってくれて(歴史が好き)自分なりに調べた。見学したいなと言っていた。

◇自分が思っていたよりも戦争が身近にあっておどろきました。日本が被害をうけたことはよくきくので知っていましたが、それと同じように加害していたこともよく知って、戦争はきずつけ合うだけなのだと思います。昔のあやまちを二度とおこさないようにして、当たり前の日々に感謝しながら生きていきたいと思いました。

◇慶應大学の日吉キャンパスに戦時中の何かがあったとはきいていたけど、日本海軍の司令部があったと知って、ビックリした。また、日吉の丘公園にも地下ごうがあった事にもビックリした。特攻兵器は「回天」しか知らなかったが、他にも色々な兵器があったことを知った。特攻兵器の名前は「桜花」や「回天」などカッコよさそうな名前だけど、本当は人の命を犠牲にさせて戦争に勝つという非常にぎんこくな兵器だと思った。

◇防空壕や地下の巨大な司令塔という戦争における負の遺産の御説明により、恐ろしい計略を知りとんでもないなと思った。昨今ウクライナ情勢やシリアの内戦による支援物資の不足などといった戦争に相違ないような状態に陥っている地が多々ある中、こういったお話を拝聴し、やはりそのような上層の人間によって人々が苦しむ事の悲しみ酷さを覚えました。

◇地下壕や太平洋戦争のことについて興味をもつことができる良い機会だった。記憶があんまりないのだけれど慶應大学の地下壕に行ったなと思い出しながら集中して話を聞くことができ、もう一度行ってみて資料やお話の中での地下壕の説明をこの目で見てみたいと思った。特別攻撃の話やミャンマーでの戦いを経験した人の話を聞いて、戦争自体ではなく戦争をおこし被害を拡大させる人間が悪いのではと考えた。

◇6年生の時に見学に行けなくて、残念に思っていたけれど、今回の講演会でお話を聞かせてもらって、戦争の残酷さが感じられたし、当時生きていた方々の体験したことを知って、今でも戦争している国々がある中で、自分たちがどのような行動をとっていくのが大切なのか考えさせられて、貴重な体験ができた。

◇今回の話を聞いて日吉に地下壕があることを初めて知りました。他にも、戦争では人がどのように亡くなっていったか等を詳しく知ることができました。小学生の時から戦争のことは少しずつ学んできたけど「特攻」のことについては初めてでした。それに特攻の背景として、訓練の途中で亡くなったり、そこで生き残っても結局は特攻して亡くなったりしていて、とてもざんこくだと思いました。自分の知らないことが多かったので、多くのことを学ぶことができました。

◇あまり普段機会がなければ、聞くことのできない、まだ私たちが産まれていない時代の話、でも、きっと耳を傾け必ず聞き、考えなければならないことだと私は思いました。それは次の世代への命の重さや人間の弱さ、明日のことを当たり前前に考えることができる幸せを伝えていかなければならないからだと思う。当たり前前に来る1月、1日を大切に、これからも学校生活を送ってゆきます！！

◇平和講演会を聞いて、平和について考えるきっかけになりました。真珠湾攻撃から終戦に至るまで、いかに日本が戦争に進んでいって、たくさんの方がなくなったのかを、特攻の紹介や地域の歴史から知ることができました。1943年に日吉でも学徒出陣があったことを知り、自分がその時代に生きていたら、と考えるととても恐ろしくなり、戦争がいかにくだらないものか、あらためて感じました。地域の戦争の歴史から、特攻の話などとても勉強になる講演、ありがとうございました。今回学んだことを生かして、これからも平和について学んでいきたいです。

◇戦争のとてもつもなく大きな被害と、国の恐ろしい戦法や国民への洗脳について聞き、私はやはり戦争は誰も得をしない、あってはならない、起こしてはならないとてもおぞましいものだとして再認識させられました。そしてそのためにも歴史を学び、そして起こさないように語り継ぐがなくてはならない大切なものだと思われました。

◇正直、戦争は遠いものだと思っていたけれど、今回日吉も大きく関係しているということを知って思っていたより自分達にも身近な所で起きているのだと知っておそろしく感じました。あと、太平洋戦争後期の作戦は、何をやりたいのか意味不明なものばかりで、もう少しなんとかならなかったのかと思いました。そしてもう二度とこんなことが起きないように、戦争はしてはダメだと思いました。

◇たくさんの方が亡くなることになってしまった戦争のおはなしを聞くことができ、より、このようなことが二度と起きてはいけないと強く思いました。自分が家族が戦いの道具となり、オロボロになるのは私たちの想像を超えるものだと思います。今回のようなきかえをもらえて、命の大切さをより深く感じれました。ありがとうございました。

◇「戦争は終わりたくても、終わることができない」という言葉が深く胸に響いた。終わりたくて、終わることができるのなら、ここまで被害は出なかったと思った。自分の思いが一つも通らないところも含めて、戦争の良さはやっぱり無いと感じた。中学生くらいの子でも、たくさん働かなければならないのが、すごく大変で辛そうだった。生まれる時代が違うだけで、こんな目に合わなければいけないことがすごくざんこくに感じた。戦争を始める人はどういう気持ちでやっているのか考えてみたい。

会報 150 号を記念して (3)

運営委員 上野美代子

私の会員歴は古いですが、会の活動歴は、まだ10年くらいです。定年退職後、仕事の先輩である中沢さんに声をかけていただき、顔を出すようになりました。現在運営委員とガイドを行っています。

ガイドをやってみて、自分が戦争のことをなにも知らなかったことに気づかされました。沖縄でガマに入った時に日吉の地下壕との違いにショックを受けました。この違和感は大切にしたいと思っています。

保存の会では、体験者の方やいろんな方のお話を聞いています。でもだんだん体験者の方のお話を聞くことができなくなって来ました。皆さんが一樣におっしゃることは、世の中のことをよく知り考えてそして発言することが大事とお話しになります。

テレビの番組で『ポーとしてんじゃないよ』と5歳の女の子がどなりますが、そう言われたいようにしたいですね。82歳までガイドをされていた故長谷川さんを目標に頑張ります。

新資料発見**山田金治郎さんの中国戦地からの手紙と葉書**

運営委員 山田謙

山田金治郎は私の父・義造の兄で昭和9年に現役徴兵で満洲に派兵され、昭和11年に満期退役しました。しかし、その出征中に母親を亡くしました。滋賀県草津市の人です。戸籍名は金治郎ですが、なぜか陸軍では金次郎になっています。父親の逸治郎さんと鮮魚店を営んでいたようです。金治郎さんは昭和12年9月に再召集されました。折からの日中戦争開始2ヶ月後のことです。しかし当時、父の逸治郎さんは病弱で12月には亡くなってしまいました。そういうわけで、伯父で八百屋の山田治郎吉さんを頼りにしていたようです。

所属は陸軍歩兵第16師団第9連隊歩兵砲中隊で、予備役召集の伍長でした。部隊は当初は、北京南方の「北支那」方面に派兵されました。この手紙は中国に上陸して天津に着いた時に治郎吉・伯父宛に出されています。部隊は石家荘東方を南下侵攻しましたが、日本軍は上海方面で中国軍の反撃・抵抗を受けて大苦戦していました。その救援のため第16師団は引き抜かれて上海近郊の揚子江南岸に上陸しました。葉書はその船中で伯父宛に書かれています。部隊は南京に向けて侵攻しました。金治郎さんは、その途中の呂城鎮という町で中国軍の砲弾で負傷し野戦病院に送られました。しかし翌年の2月6日に破傷風のために戦病死してしまいました。24才でした。

この手紙と葉書は今年1月に見つかりました。私の兄の家にあった小型のトランクの中にあつたものです。手紙や葉書がたくさん入っていました。私の父が保管していた遺品です。金治郎さんは達筆で草書の走り書き、旧仮名づかいで難読です。読み取れない字もありますし、読み間違いもあると思います。

文面には郷里に残してきた父親や家族への心配を必死に押し殺し、ただならぬ戦況への不安を振り払って戦地に向かう金治郎さんの心境がにじみ出ています。とりわけ「後退すれば銃殺されます」という文面には驚かされません。たしかに「敵前逃亡」は死刑ですが、当時の軍の検閲は緩かったのでしょうか。封筒には「軍事郵便」と



山田金治郎さん

朱書きされています。「細きん戦」という所には横線が引かれているので、「細菌戦」と思われます。

なお、旧仮名づかいを改め、漢数字は旧字体で読みにくいのでローマ数字に直してあります。原文は縦書きです。句読点も補いました。〔 〕は補筆ですが、書き違いと思われる所も原文のままです。

(1)封筒の手紙 昭和12年9月18日

《宛先》滋賀県栗太郡草津町2丁目 山田治郎吉様 美津様 御机下

(赤字) 軍事郵便 切手四銭 (消印 ○2.9.23)

《差出人》片桐部隊 向井隊 天津にて 山田金次郎

御無沙汰致して居ります。御健在ですか。小生も至って健勝御安心下さい。

昨17日3時半天津着。同夜11時半出発、西站駅から列車で戦地に向かう予定でしたが駅へ行けば吾々ののる貨車はなし。遂に明方になって天津の駅に引かえたのです。

未だに砲(タークから水路輸送)がこず弱って居りますがもう1時間程でつくのですぐ出発です(18日午後3時頃)。

しかし(〔第〕3大隊の)小銃中隊は昨夜3時頃出発したので今頃独流鎮にいるだろうと思います。15里ほど行けば戦場で明後日(20日)には戦闘をやっているかもしれません。我師団が湿地と食料不足で大分やられたので第9連隊の兵隊は天津〔に〕つくまでつかれきって小銃中隊などはたくさん落伍したのですが、そんな状況ですからすぐ出発したのです。これからは細きん戦かもしれません。

とに角、体に注意せねばなりません。昨夜家へ〔手紙を〕出しましたがくわしい事はいっておりません。心配するといけないから只一日出発がおくれたといってお下さい。そして下地(?)さんに、この手紙を見せてやって下さい。支給品の被服類は捨てる位で食料を出すべくもって行きます。過労の為と睡眠不足で、この連隊の中でも死にました。第3機関銃の兵隊で、船内で盲腸を病んだのですが昨日病院で死んだです。

仲々これから戦闘も膠着状態だろうと思います。思う様に進まないと思います。危険な事もあるだろうが注意して行きます。前進するのみです。後退すれば銃殺されます。そんなことが真〔まこと〕か戯〔たわむれ〕か伝わっております。手紙もこれで一時とぎれる事と思います。最後かなのか、しれないです。覚悟の前ですが元気で気をつけて行きます。

家の方は御厄介ですが最悪の場合はおじさんと父上とよい様に家の将来をお頼みします。

鉛筆がわからなかったので赤鉛筆ですみません。縁起が悪いかもしれませんが禍を福と至します。

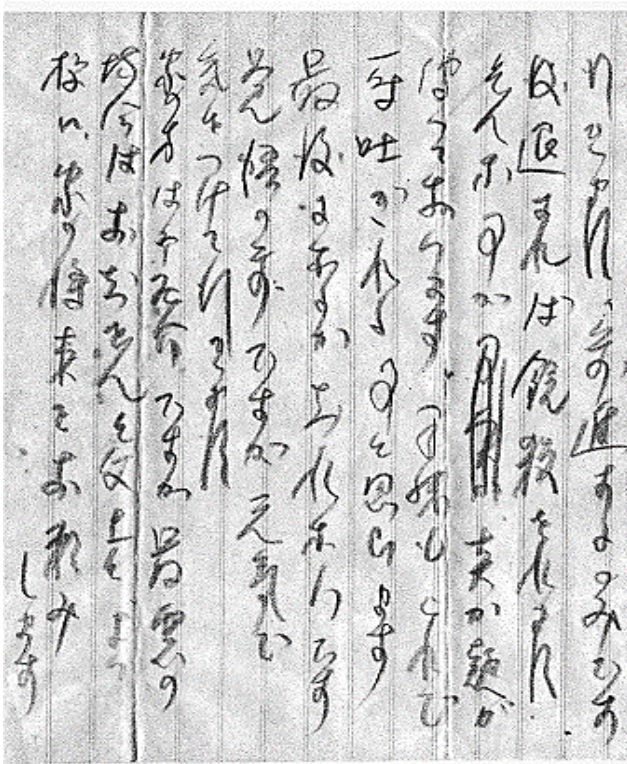
では御機嫌よく、みんな御達者で。3時に出発

昭和12年9月18日 午後1時20分

きんじ おじさん おばさん

《註》「ターク」——大沽の中国語読みで、天津東方の港町

「片桐部隊」——第九連隊長：片桐護郎大佐の部隊、「向井隊」は向井中隊長の隊



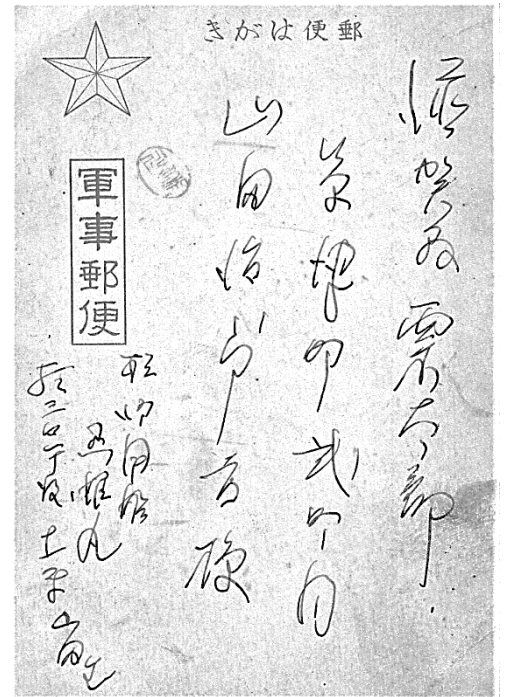
山田金治郎 手紙

(2)葉書 昭和12年11月13日

《宛先》滋賀県栗太郡草津町2丁目 山田治郎吉様
 《差出人》於 御用船 黒姫丸 13日午後11時 山田生
 軍事郵便 ㊟

いよいよ明朝敵前上陸 あこがれの上海へ参りました。元気で最後の御奉公を致します。色々と御厄介に〇〇りました。只、心残りなく頑張ります。年老いた父が可愛想ですが、運命、何分ともよろしく御願致します。屍山〇河の上海より再び故国の町が見られる時があるならば、どんなにうれしいでしょうに。それは空想で、只、死を覚悟してなつかしき母の在す天国に行くかもしれません。ではこれで最後の筆をとめます。

みんな御健在でおすごし様に、御身大切に
 草々



山田金治郎 葉書

お知らせ

◎パネル展示会 (日吉台地下壕保存の会)

日吉台地下壕、戦前の日吉の様子、太平洋戦争関連の展示を行います

場所：横浜市港北図書館1階 “港北まちの情報コーナー”

展示期間：7月1日(土)～8月5日(土)

開館時間：9時30分～17時

※ミニレクチャー：展示会に来られた方々に保存の会の説明員がご説明します

日時：7月8日(土)、7月22日(土)共に14時～16時

◎講演会 (日吉にある戦争遺跡について)

日時：8月5日(土)10時～12時 **場所**：横浜市港北図書館2階 会議室A

定員：当日先着40名(申し込み不要)

お知らせ パネル展示会 (日吉台地下壕保存の会)

日吉台地下壕、戦前の日吉の様子、太平洋戦争関連の展示を行います

場所：日吉の本だな(日吉図書取次所)

慶應義塾大学「協生館」1階 日吉駅(東急東横線・目黒線、市営地下鉄グリーンライン)徒歩1分

展示期間：8月6日(日)～8月30日(水)

開所時間：月曜～金曜 10時～20時 土・日曜、祝休日 10時～18時

連載

海外の戦跡めぐり (23) 対馬海峡の守り 日本・韓国

運営委員 佐藤宗達

日本と朝鮮半島の間(対馬海峡)は約200kmあります。明治政府にとっては海の守りをどうするかが重要課題でした。まず対馬に1887年から要塞が設置されます。東京湾要塞に次いで2番目に建設されたものです。日清戦争後には要塞の設備は強化され、日露戦争時には更に強化されました。朝鮮半島では日露戦争に伴い連合艦隊の基地として鎮海湾を利用することとなり1904年鎮海湾要塞が設置され後には朝鮮海峡・釜山港の防備が強化されました。対馬海峡の南側の防備強化には壱岐要塞を設置することとなり1924年から1938年にかけて壱岐及び長崎・平戸地区に砲台が設置されました。こうして釜山砲台・対馬豊砲台・壱岐黒崎砲台・壱岐的山大島砲台(平戸の北側)の4点を結んで対馬海峡が守られることになりました。

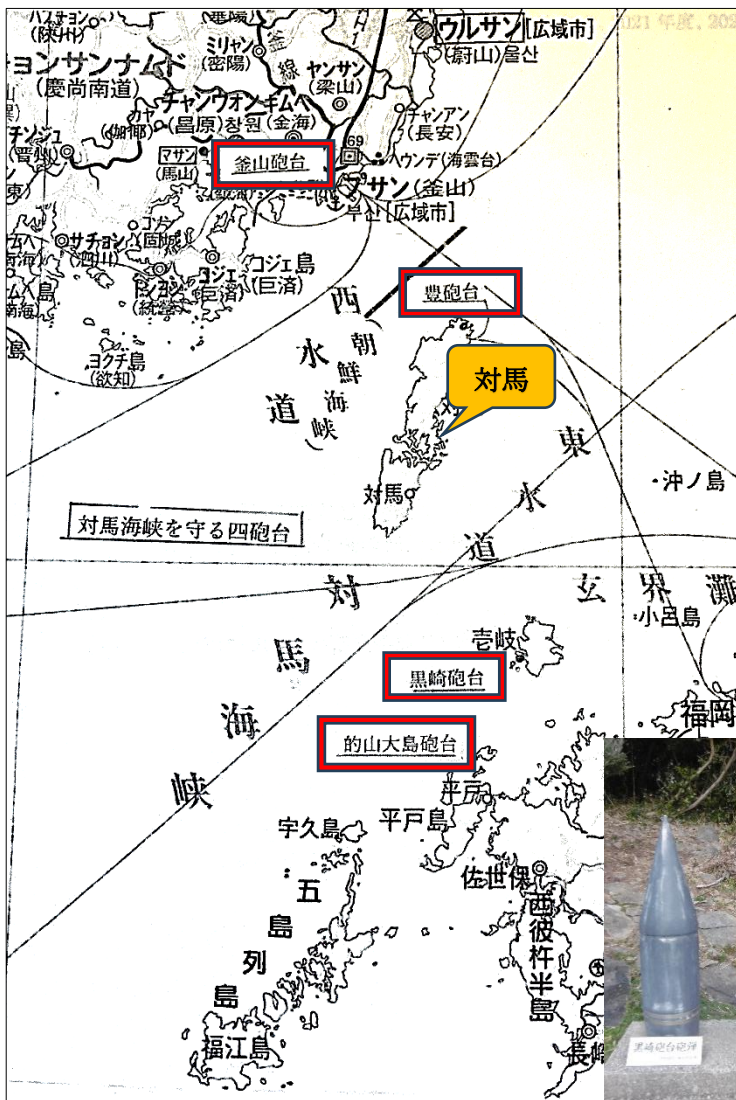
さてこれらの砲台にはワシントン海軍軍縮条約により建造中止及び廃艦となった軍艦の主砲が転用されております。今も残る砲台跡を見ると軍艦の主砲はこんなに大きかったのかと感嘆させられます。なお韓国では終戦後日本時代の物は徹底的に廃棄・排除されており釜山砲台の跡は探してもわかりませんでした。

「韓国・釜山砲台」1924年10月着工、1930年10月竣工。建造中止となった土佐の2番主砲が転用されております。40センチカノン砲で日本軍の要塞で採用された最大の砲でした。

「対馬・豊砲台」1929年5月着工、1934年3月竣工。建造中止となった土佐の1番主砲が転用されております。

「壱岐黒崎砲台」1928年8月着工、1933年2月竣工。赤城で使用する予定だった1番主砲が転用されております。(赤城は戦艦から空母に変更されたため主砲等の兵器が不要になった)40センチカノン砲。

「壱岐的山大島砲台」1924年10月着工、1929年1月竣工。廃艦・鹿島の主砲が転用されております。30センチカノン砲。



黒崎砲台砲弾(左) 戦艦大和・主砲砲弾(右) ※大きさ比較の為

黒崎砲台跡入口

お知らせ

第26回戦争遺跡保存全国シンポジウム横須賀おっぱま大会

戦争遺跡の保存と平和への思いを地域に根差して継承活動に展開しよう
～ペリー来航の地、近代日本出発点となった横須賀から

☆2023年9月16・17・18日(土日祝)

☆場所：横須賀市追浜コミュニティセンター

☆参加費：一般1日1,000円 障がい者500円

☆主催：戦争遺跡保存全国ネットワーク・第26回戦争遺跡保存ネットワーク全国シンポジウム横須賀おっぱま大会実行委員会

☆後援：横須賀市、横須賀市教育委員会、神奈川新聞社、タウンニュース社、一般社団法人横須賀市観光協会、貝山地下壕保存する会、追浜観光協会、おっぱまはっけん倶楽部、追浜連合会町内会(予定)

<大会日程>

9月16日(土)

プレツアー：9:00～ 野島と掩体壕

全体会・講演会：13:00～

懇親会：18:00～

- ・記念講演：大原一興(横浜国立大学教授)
「地域遺産のまるごと継承 市民が主体のエコミュージアムによるヨコ展開の取り組み」
- ・基調報告、地域報告

9月17日(日) 分科会 9:00～15:00

- ① 第一分科会「保存運動の現状と課題」
 - ② 第二分科会「調査の方法と保存整備の技術」
 - ③ 第三分科会「平和博物館と次世代への継承」
- ・書籍交換会

9月18日(月) 現地見学会

- ① 浦賀レンガドックと千代ヶ崎砲台跡(マイクロバス利用 4,800円)
- ② 旧海軍地下壕と戦争遺跡(大型バス利用 4,200円)
- ③ 三浦半島に残る本土決戦の遺跡(大型バス利用 4,900円)

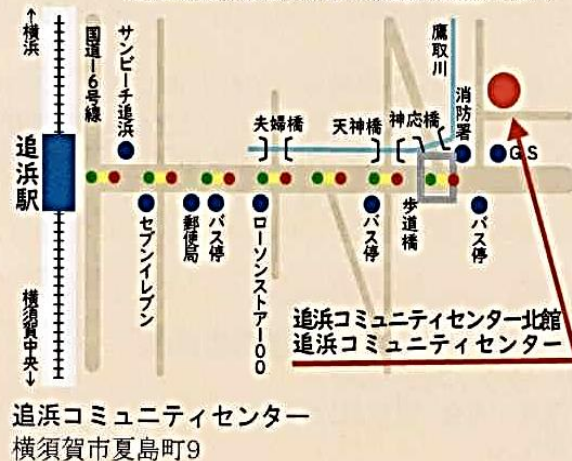
☆参加費 一般1日1,000円 学生・障がい者1日500円

基調講演：大原一興(おおはらかずおき)

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授。1995年に日本エコミュージアム研究会を立ち上げ、現在会長。ICOM-ICAMT 顧問。専門は、建築計画都市計画、居住環境老年学、博物館学研究。著書に「エコミュージアムへの旅」(鹿島出版会)など

会場へのアクセス

交通機関 京浜急行電鉄・京急追浜駅から徒歩10分
追浜駅停車・快速は金沢八景駅乗り換え、
特急と各駅は停車
※駐車場はありませんので車の来場はご遠慮ください。



本大会は申し込み方法が変更になりました。申し込み用紙のメール添付やFAXでの申し込みはなく、原則としてWEB申し込みです。詳しくは下記ホームページにてご確認ください。

申込先 (一社)横須賀市観光協会 <https://x.gd/n4Qyo> ▶▶

※当日の一般参加も可能ですが、なるべく事前のお申し込みをお願いします。
申し込みについてのお問合せ先 046-822-8256(一社)横須賀市観光協会



申込開始 6月10日(土)0:00

申込期限 8月15日(火)23:59

活動の記録(2023年3月~6月)

- 3/8(水) 定例見学会 32名 3/9(木) 運営委員会(来往舎小会議室)
- 3/10(金) 地下壕見学会 学生総合センター 24名
- 3/13(月) 冊子「戦争遺跡を歩く 日吉」増刷1500部
- 3/15(水) 地下壕見学会 慶應経営管理学科 15名
- 3/16(木) 会報153号発送(来往舎小会議室)
- 3/17(金) 出張授業 日吉台中学校体育館「平和講演会」として 2年生350名
日吉台地下壕・特攻兵の話(PowerPoint使用)
- 3/25(土) 定例見学会 31名
- 3/26(日) ガイド学習会(日吉地区センター別館)
- 4/6(木) 運営委員会(来往舎小会議室)
- 4/12(水) 定例見学会 21名
- 4/15(土) 第16期ガイド養成講座①(来往舎中会議室) 応募者29名
- 4/22(土) 定例見学会 28名 5/10(水) 定例見学会 19名
- 5/11(木) 運営委員会(来往舎小会議室)
- 5/15(月) 出張授業 日吉台中学校体育館「平和講演会」として 2年生360名
日吉台地下壕・特攻兵の話・日吉地区の遺跡(PowerPoint使用)
- 5/20(土)
- ・第16期ガイド養成講座② フィールドワーク(チャペル見学・日吉台地下壕外周を歩く)
 - ・「2023 平和のための戦争展 in よこはま」特別企画
「戦争しない世界を」羽場久美子さん(青山学院大学名誉教授)
「横浜中華街から平和友好を考える」符順和さん(元横浜山手中華学校教諭)
「南方に散った若き詩人の予言」横浜市立日吉台中学校演劇部(かながわ県民センター2階ホール)
- 5/27(土) 定例見学会 37名
- 5/31(水) 地下壕見学会 慶應高校卒業研究見学会 24名
- 6/1(木) 運営委員会(来往舎小会議室)
- 6/3(土) 地下壕見学会 恵泉女学園 25名(先生・中高生)
- 6/13(火) 地下壕見学会 福澤研究センター設置講座「近代日本と慶應義塾」110名
(地下壕内は密を避け、小班に分割して実施)
- 6/14(水)
- ・定例見学会7名・「2023 平和のための戦争展」展示設営(かながわ県民センター1階展示場)
- 6/15(木)~17(土) 第28回「2023 平和のための戦争展 in よこはま」展示
(かながわ県民センター1階展示場) 横浜大空襲ほか約500点
- 6/17(土) ・第16期ガイド養成講座③
・日吉台地下壕保存の会 2023年度定期総会(来往舎大会議室)
- 6/24(土) 定例見学会 24名
- 地下壕見学会について
定例見学会は毎月2回 定員30名。第2水曜日・第4土曜日午後が基本です。
☆学校関係(学術・教育)の見学は定例以外ご相談で実施しています。
★お問合せ・申込みは見学会窓口まで TEL/FAX 045-562-0443 喜田 (午前・夜間)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758

(見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443

ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口二千元以上
発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921
代表 阿久澤 武史 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
日吉台地下壕保存の会運営委員会